

公益財団法人 8020 推進財団

令和 6 年度 歯科保健活動助成事業報告書 [抄録]

1. 事業名：青年期における歯科保健啓発活動「ハローフロスプロジェクト」の推進
2. 申請者名：一般社団法人 仙台歯科医師会 代表者：小菅 玲 担当者：平田 政嗣
3. 実施組織：(一社) 仙台歯科医師会・東北大学大学院歯学研究科・東北大学歯学部歯科医療研究会・仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議・仙台市
4. 事業の概要： 壮年期以降重症化する歯周病は減少傾向が見られず仙台市・宮城県においては全国でもワーストに甘んじている。その対策において、壮年期からでは遅く学齢期青年期からのアプローチを対処する必要があることは明白である。しかし特に大学生を主とした青年期においては有効な対策がほとんどなされていないのが現状である。その要因として、当事者の目線から活動方針が策定されていないことがあげられる。そこで活動の主体として東北大学歯学部学生のサークルである「歯科医療研究会」と連携し、テーマをデンタルフロスの青年期への普及啓発に絞り、活動の主軸に学生を据え広く仙台市内の大学・短大・専門学校等への啓発活動を行うことを目的とした。 青年期への当事者目線での有効な歯科保健活動を行うとこで、来るべき壮年期高齢期への行動変容の一助となればオーラルフレイル啓発予防の推進に一石を投じることもできる活動と言えよう。
5. 事業の内容： (1) 事前調査の実施・活動方針や規模の検討 仙台市内大学生に対して事前アンケートを行った結果、歯と口の課題について気になる問題として「歯の黄ばみ」「歯並び」「口臭」を半数以上が挙げていたが、むし歯や歯肉炎については意識が決して高くなかった。また、デンタルフロスの存在を「全く知らない」と答えた人は 19%であった。 (2) 歯科保健指導媒体の検討と作成・使用するリーフレットの内容の決定 事前調査から青年期に効果的な内容となるようにリーフレット作成にあたっても十分に考慮した。また、デンタルフロスの周知がまだ不十分であり、啓発ツールとしてデンタルフロスを活用することは行動変容の評価要素として有効と判断し、デンタルフロス付きリーフレットと使用方法を解説した動画を作成し、配布を行った。 (3) アンケート調査実施・調査結果の集計・分析 (4) 分析結果から課題抽出とその対策の検討・次年度以降の活動方針の検討
6. 実施後の評価（今後の課題）： 青年期においては、「むし歯・歯周病」を啓発材料とするより、より審美的な内容を啓発材料とすべきことがアンケートからも確認された。さらに予想以上にデンタルフロスの使用率が低かった。歯間清掃器具としてのデンタルフロスの活用が必要なことは論を俟たない。フロス付きリーフレットを活用した啓発活動は一定の効果を得た（デンタルフロスの必要性の理解、リーフレットを読むことで健康意識の向上）が、アンケート回答数から考えると、単に配布するにとどまらず、何らかの情報発信を伴うような配布方法を考慮する必要がある。これは、より丁寧な情報発信が伴うフォローアップアンケートでは明らかに効果が確認できたことから窺える。今後も本事業実施団体であり、青年期当事者である東北大学歯学部の学生サークルを活動の軸として、彼らを支援し協働する立場で活動を継続したい。「学齢期・青年期の市民が、壮年・高年と年齢を重ねても健康なお口で食べることや話すことを楽しめる土壌づくり」を目指して行動していく所存である。